

# 岡山訪問記 (三)

## 一 保 姆

(2)、縣立女子師範學校附屬幼稚園

敷 地 〓 八〇〇坪

建 坪 〓 一九二坪

室 〓 保育室三(各十二坪)、遊嬉室、應接室、

保母室、使丁室炊事室

幼兒數 〓 七五(二年保育多數)

保母數 〓 三

保育料 〓 參〇錢

昨年は宿泊保育を試み、時候のよい季節にまづ希望兒を問ひ合せ一日十人づゝ週に二回づゝする勿論保母はその日は全部宿泊する、夕食の仕度にも先生と一緒に八百屋に魚屋に買物に行く、調理

も出来る丈お手傳をする、お床のあげおろし、お掃除等に、幼稚園を「お家」の様に思ひ先生をお母様と感じる、家庭的な親みを持ち子供達は今度は誰の番、今日は私の番と云てまち遠しがつてたのしむ、その寫真を見せていたゞく、これは主事先生がうつしになつて私共が現造したもの、これは私達がうつしたり現造したりしたもの等いづれも保母の先生方の丹精こめられたもの、大切な朝の時のうつるのを惜しみ、應接室を辭して廊下に出る、廊下はやはり幅廣く、應接室保母室積木のお室お座敷玩具の室を廻て、更に二間ほど花道のやうに續いた向には、やはり半面廊下をめぐら

した遊嬉室がある、この廊下には低い欄干があり鉢台が所々に金具で取り付けてある、又庭への下り口は皆スロープで階段はない。南面した陽あたりよい巾廣の廊下の其處此處には、幼児にふさわしい高さのソファが置いてあつて三四人づゝ何か口ずさみながら楽しさうに身體をはづませてゐた、積木の室には片隅に食事の時用ふテーブルと椅子がきちんと片付いて居り、積木としては箱積木、床上積木、丸太、板等が備へられてある、その時この室にはあまり幼児を見なかつた、後に五六人が飛行機を作る相談をして各種の積木を組み立てゝゐた。

玩具の室には標本、繪本、まり、木製動物等の陳列してある玩具棚があり外に作りつけの各兒の戸棚がある、そこには一人々々模様の異なカーテンがついて居り中にはクレイヨン、畫帖、其他製作品等が入れてあつた、中央のストープをかこん

で(この室だけストープが取り付けてあつた)思ひのまゝに小さい机と椅子を運んで来て、そこで四、五人が繪本を見たり、よんだりしてゐた、廊下にも小さい机と椅子をならべた女兒達が、繪本の上で白紙をのせ人形を鉛筆でうつしては、剪りぬいてゐた、主任の先生の話を話しになつた「お椽保育」の實況を拜見し、南の椽側で、まりをついたりお手玉をした自分の幼時を思ひ出し、ほんとうに、子供部屋の延長を實感し得る此の園兒の幸福を、かうした幼稚園保育のあり得る事を嬉しくも有難くも思つた。幼兒數の割合に、廣い庭のある此の園は男兒達の兵隊ごつこにも、女兒達のかくれんぼにも思ひ存分の活動が許された。朝のうちには年長の元氣のよい子供達は多く庭に出て、若い保姆の方もお仲間にして陣とり、おにごつこなどの遊びがつづけられてゐた。しばらくして主任保姆の〇先生は、お座敷と子供達に呼ばれてゐる疊の室

にはいられる、床の間には達磨づくしの軸がかけられ側床には、雉子の剝製、ほていさまの置物などが程よくならべられ、たしかに「お座敷」といふ感じである。瀬戸の圓い火鉢が二つほどに、ほんの手先をあたゝめるほど火がは入て居る。庭で使ふ卓が四つ五つ中央に出され女兒の少數（二十人程）は油粘土で、人形や御施走を作りはじめた、

「さあ何々をはじめませう」と云はずに、される遊びの中に〇先生の深いお心使ひが動いてゐるようには思はれた。それに園児七十五名定員といふ人數が百二百といふ大きい團體的な數に較べて、どれだけ家庭的であるか、そして何の組といふ事なしに、十人兄弟の内の三人五人を母親がよぶ様に、「あちらの方達」とつしやうといへばすぐにそこに小分團が出来る、しかもその分團といふのは知能發達、身體發達、數觀念、讀字力、等種々なる方面から觀察された結果であり、保姆の先生のあ

心には周到な御準備がある、幼兒の立場から見れば、たゞお友達の誰彼でそこには何のむづかしい意味もない。内に行き届いた教育的施設、調査、準備、意圖があつて、表れた形には何の束縛もなく親しい母や兄弟達と遊ぶやうに、眞に家庭教育の延長を實現されてゐるのが此の園の貴い所。

粘土の遊びが終て女兒が庭に出ると、今まで元氣よく遊んでゐた男兒（少數女兒も居る）達が入れ代りにお座敷にはいり、〇先生をそばから取り圍む、「お話し！」と誰かといふ、存分にとびはねて、畳の上でお話をきく。子供達は、どんなに、家のやうな氣持でゐるだらう。幸なこの子達に較べて遠く残して來た自分の園の子供達の上を氣の毒に思た。〇先生はやがて私を紹介される、お話の番は方向が變た、あはてた私は今度思ひ出してゐた、自分の園の事、旅の事などを少しばかり話す。そのあとで「ナゾ〜」あそびがあつた。

先づ先生が、紙に片假名で騰寫した問題をお渡しになる、幼児達は、粘土の時用ひられたと同じ卓を出して來てお互に、三、四人づゝ卓を圍み、假名を讀んで、「何だらう、あゝ解た、」などと相談をしたり考へたりに暫く時をうつした後、問題の傍に残された、場所に字で答へるもの、畫で描くもの、畫を描いて又字で説明するもの等種々様な答案であつた。ナヅ／＼の問題は次の様である。

シロイカラダニシロイカホ　ヲセバコログルコ  
レナアニ。  
ウミノムカフノ　トホイクニカラ　フゾクノヨ  
ウチエンヘ　マキリマシタ　ママア　ダツコシ  
テクダサイ　コレダアレ。  
アメノヒモカゼノヒモ　アカイカラダデ　タツ  
テキテテガミノゴハンデ　オナカハ　イツバイ  
コレナアニ。

ムカシ　ムカシ　オホムカシ　カメト　キヤウ  
ソウシテマケマシタ　コレナアニ。

あとで先生のお話に、この分團の幼児（約三十名）は四七音の假名を全部讀み得又書き得る者であるとの事であつた。一字／＼の書き方は勿論、幼児の思ふまゝであつた。やがて他の二室で食事の用意が出来る。畫食は御飯を圍で炊き、暖いので十人一個あてのお櫃に分けてある、よそふ當番がきまつて居て代り／＼にする、ここにも箱のお辨當をおもさうに持つのと違た親しみがある、毎月初一定の米を各兒が家庭から持て來て、それを集めて、毎日是小使が炊くとの事である。

家庭と幼稚園聯絡の爲毎學期騰寫版によつて出される小冊子「ポブラ」には保護者の寄稿もあり全兒の身體發育表保育豫定、幼兒自由畫、幼兒生活斷片等が出てゐる。忙しい中でかくおまとめに  
なる先生方の御努力、よむお母様方の喜びを十分

想像し得る。

其他觀察の乘、幼兒の語彙調査等、學說と實際と更に甚大な先生の御努力の結果とが印刷されてある。

なほ小學校との聯絡に就いて、先年は尋常二年まで保母が持上り、昨年は或學科のみを持ち上る事とし、其他小學校に於ける低學年の研究教授、幼稚園に於ける研究保育には相互參觀や意見交換をすとの事、諸方で問題にされてゐる幼稚園小學校聯絡問題も此地では早や解決して實行期になつて居る、空論ぢやない。實果のある〇先生のお話を伺てゐると、かういふ園で保育實習をする、女子師範生の幸が思はれる。

午後一時に市役所へ行く豫定であつたので残念ながら、幼い方々のお食事中この園をいとおししなければならなかつた。市役所で學務課長から伺つた話は一般狀況として前に記した通り、深抵の

園長先生に御案内いたゞいて次にお尋ねしたのが旭東幼稚園、梅鉢式建築である。

(3)、旭東幼稚園(明治四十一年創立)

幼兒數 一三五

保母數 五

保育室 四

八角の遊嬉室を中央に保母室と三保育室を廻らし、後に増設された廊下つゞきの一室を加へて保育室四、組數四で組編成は年齢別である。午後二時過ぎて居り此日は既に園兒歸宅後で残念ながら保育の實況を拜見する事は出来なかつた。

(4)、市立幼兒托兒所(昭和二年創立)

遠く山を望み、田畑を圍らした町はづれといふ感じのある所、近所は主に工場、労働者の居住地である。

敷地 三二四坪

建坪 一〇五坪

育兒室(四)、遊嬉室、炊事室、浴室、食堂、應

接室、事務室、小使室、物置、そして此處にも廊

下の利用が出来てゐる、丁度私が伺つた時はお晝寢のすんだ處、幼兒は育兒室から出て來て遊嬉室で滑台に乗りなどして元氣よく遊んでゐた。保育料は無料、午後一回間食を支給する。お辨當は各自持參、百名の幼兒と十名の乳兒が收容されて居るまわりの田圃にれんげ咲く春の美しさを想像しながら主任の先生にお別れして此處を出る。

朝から暮るまで、お疲れもいとほれず御案内下さつたO先生は此夕、女子師範附屬のO先生はじめ數人の先生方と小集をお開き下され、お話は幼兒教育から昨夏先生の參加された女教員會の滿洲視察談に及びいつか夜の更けるのも忘れる程であつた。

次の朝は内山下幼稚園の園長先生に御案内いたゞきまづ園を見せていたゞく。

#### (5)、市立内山下幼稚園

敷地 六二〇坪

園舎 二二一坪

室、保育室(五)、遊嬉室、保母室、小使室

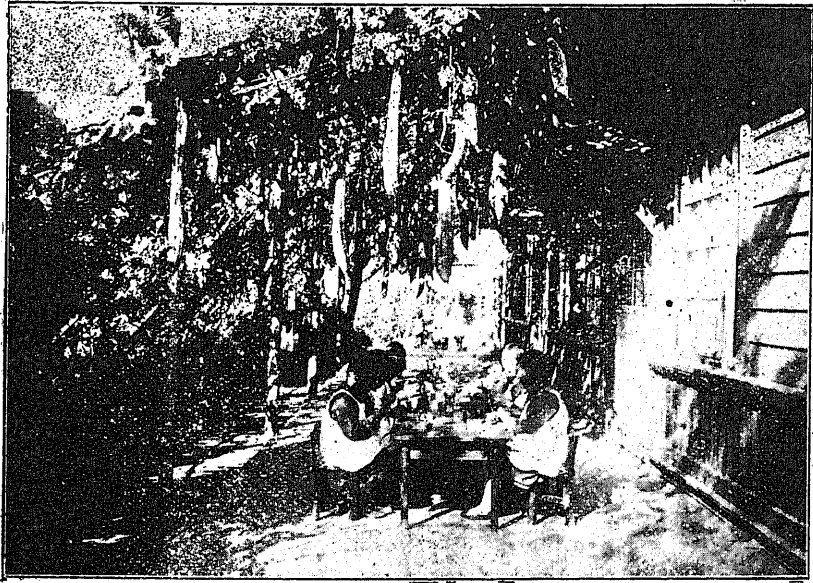
二十間近い敲廊下、遊嬉室を圍る幅廣い板廊下と、敲廊下は地上から五・六寸高くなつて居る、積木、粘土、等保育室同様にこの廊下を使はれる(寫眞參照)ことに積木には、板廊下のように響かなくてよろしいと先生のお話である。

幼兒數 二百名

保母數 五名

組編成は「移動的編成法」として多様な幼兒生活に即する爲、其時其場合に應じ或は年令別に、或は能力別に、或は身體の強弱により或は作業別等多種である。

なほ四月の入園に際し、嚴肅な式の代りに雛祭を催し舊園兒主人役となつて接待し、はじめて登



(園 稚 幼 下 山 内) 工 細 土 粘

園する新入兒の第一印象を楽しく親しみ易きものとするとゝの事であつた。

庭には城の石垣をくづして作た築山がありそのつゞきにはまだくづれぬ見事な石垣の上に老松が封建の昔をしのばせてゐる。この園の門から玄關の間にも、大名行列の背景に見る様な古松がそびえてゐる、奥床しい香を聞く感じ。次代の國民が賢實なその第一歩をかういふ環境にはぐくまれる事はほんとうに變遷のはげしい大都市では到底もつ事の出来ない、幸福である。

幼兒教育の北斗たる我が倉橋先生もその少年の日に此處の小學校に學ばれたよし、ムッソリーニ夫人がその愛兒を片田舎で養育されるといふ話も思ひあはされていよく岡山の教育聖地なる感がした。この園から程近い旭橋といふのを渡るとはや有名な後樂園である。すごい程澄んだ川の水、對岸を見れば天主閣が高くそびえてゐる、ペンキな

ぞで塗た蒸汽船のやうな目ざはりな物はない、美しい日本である。

「よい時候には幼児も度々この道を通て公園に行きます」案内して下さつたT先生は曰はれた。遠く向を西大寺行きの汽車が通る。園内でT先生のおみあしをとめて、しばらく眺め眺たのは蘇鐵林、美事なものである。眞夏の空を背景にして見たら一層、壯觀だらふと思た、涼風をしのばせる池のさぐなみ、藤、かきつばた、八ッ橋を渡る櫻の馬場、見上る高さに椿がさいてゐる。幼児をつれて來て、はだしにして走らせない。十一時五分で倉敷へとお約束の時間をすごしてつひ見とれてしまつた。それから、お待ち下さるとのお電話に早速、市立清輝幼稚園(明治二十年創立)へ行く、園地三百坪建坪百四十坪旭東幼稚園と同じく梅鉢式建築である。幼児百七十五名、保母四名、四の保育室は皆御晝食であつた、汽車の時間があるの

で此處を辭す、内山下幼稚園のT先生は市保育會幹事會に御出席の爲道でも別れし、清輝のN先生驛まで御案内下さる。次の下り列車まで四十分ばかりあつたので、近くにある昭和館托兒所を訪う。

乳幼児共約六十人、保母三名、保育料月一圓、特別事情あるものは無料との事、托兒以外の教化診療、人事相談、又娛樂的集合等の施設がある。

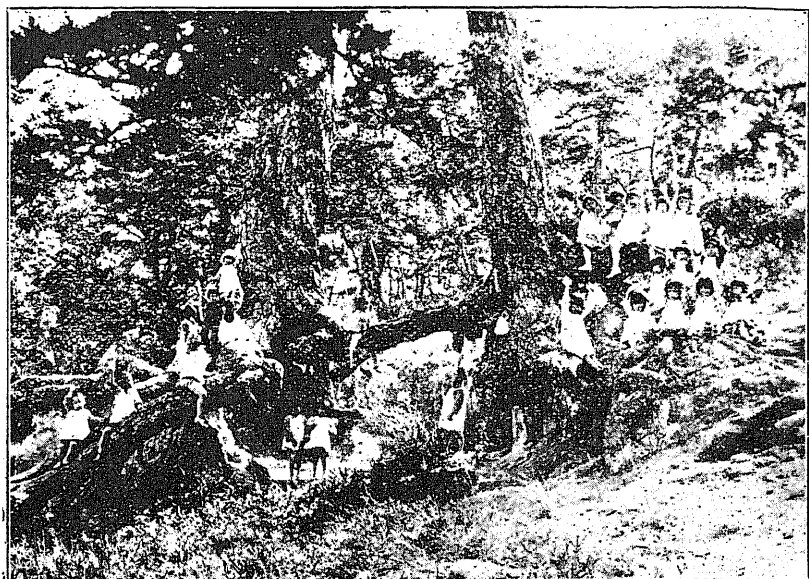
時間がなかつたのですぐにおいとまする、この向ひの工場で、三、四寸の圓筒形の木片をたくさん見た、深抵幼稚園で使て居られる積木を思ひ出した。目を開いて歩けば保育の材料は、路旁にくらもあるのだと感じた。驛にもどり、下り列車で倉敷に向ふ。車中僅かに二十分餘、驛にはI先生わざ／＼お出迎いたゞき直に園に行く。

倉敷幼稚園(明治二十九年創立)

敷地 六百二十坪

園舎 百七十二坪





(園 稚 敷 倉) りボノクワの然自

幼 兒 百六十名

保 姆 五名

園 醫 一名

室 保育室四、遊嬉室、應持室、事務室、休養室、小使室、其の内疊敷の保育室一

すぐ隣りに、倉敷小學校の低學年だけの平家建の校舎がある、職員の相互參觀、懇談會や、幼兒兒童招待會等幼稚園との聯絡上便宜であるよし、園に着いたのは早や二時すぎ、二、三殘た幼兒が砂場に遊ぶのを見たゞけであつたのは誠に残念であつた。豊かな自然へ、屢々催される園外保育の寫眞數々。(「自然のワクノボリ」寫眞參照)

又自然物應用製作、描畫に依る智能測定、等の學理的、實際的兩方面の研究調査の結果を見せていたゞく。每學期、家庭に渡さるゝ「双葉」といふ騰寫版の小冊子先生方の記された幼兒の園に於ての生活斷片、又ち母様方の投稿、や幼兒にきか

せるお話が載てゐる。なほ此園では間食支給、幼児郵便貯金をして居られる。I先生の心づくしのおもてなしに、貴い御研究のお話につひ時のうつるのを忘れる程であつた。

歸途つひ近くにある私立「若竹の園」といふのに行く。かしこくも 明治大帝の御製

すなほにもおほしたてなむいづれにも

かたぶきやすき庭の若竹

をモットに「倉敷さつき會」が大正十四年に設立された保育所で、中産階級以下の保護者のため晝間その子供を預り親の生業を助けると同時に兒童心身の養護を目的としてゐる。

敷地 五六〇坪

園舎 一五八坪（創設費三五〇〇〇圓）

室 幼稚園遊嬉室（一）、保育室（二）、醫務室、事務室、托兒所遊嬉室、乳兒寢室、食堂、浴室、炊事室、集會場（二〇疊敷、二階）、保姆居間（十

二疊、物置、使丁室、

組編成、幼稚園保育を主とするもの托兒を目的とするもので別れて居る、二才三才の乳兒と呼ばれる方は托兒の組の方にのみ居る、これを星の組幼稚園兒を月の組呼ばれてゐる。月の組は辨當持參、星の組は晝食支給であつて保育料は、星の組月一圓五十錢、月の組月五十錢である、兩組とも間食は一日一回といふ事であ、なほ保育料は事情により十日毎に分納してもよいとの規定である。維持は「さつき會」の事業による純益、有志寄附、市及縣の補助金と保育料にてされてゐる。

幼兒八十二名、保姆五名で、園兒健康狀況、精神發達狀況、家庭狀況等の行き届いた調査が行はれ、隣保事業として、親の會、子供會、夜學裁縫部、兒童健康相談所（中央病院小兒科の助力に依る）を開かれてゐる。

子供會は、曜日と時間を定めて小學兒童に圖書

閱覽を計し、又遊具による室内遊び、運動場開放を  
をし時には遠足、お話を催すと。年報によりこ  
れらの詳細は報告されて居る。

「童話の中のち家」これは年報に記された谷崎主  
任のち言葉であるが、美事な松の幹の間に赤い文  
化住宅の様な屋根瓦がみえた時、更に中には入て  
設備の届いたち室、思はず足のとまる額の繪、屋  
根裏の利用とは思はれぬ程、心持のよい二階のち  
居間や、集會室を拜見し、ほんとうに此處にあそ  
ぶ幼児の幸福を思た。私が伺た時は、早や短い日  
西にかたぶいて行くので、托兒のち室でする可愛  
い聲の主達に惜しいお別れをしなければならなか  
つた。(完)

x x x

x x x

